みんなで１５０周年に向かって！

入間川小だより

学 校 教 育 目 標

・美点を認める明るい子　・ルールを守る正しい子　・背筋の伸びた丈夫な子

【目指す児童像・・・素直な子】

令和５年１０月　３（火）No.７
狭 山 市 立 入 間 川 小 学 校
〒350―1323 狭山市鵜ノ木５－９
TEL　04-2952-6221　FAX　04-2952-6222

児童数　９／２８　現在
４９０名

人生は敗者復活戦

校長　伊藤　秀一

先月の３０日に、運動会を無事実施できました。運動会の開催に際しても、先月の本紙でも取り上げました、たくさんの「お陰」を感じることができました。まず、厳しい日差しから児童を守ってくれるテントは、学校運営協議会委員の方々、入間川小・中学校の保護者、地域の方々が運んだり組み立てたりしてくださいました。そして、運動場の整地もして頂きました。

また、ＰＴＡの役員の皆様には、安全に運動会が行えるように、早朝から、そして、競技の最中も会場係のお仕事していただきました。

そういった方々の「お陰」に感謝しながら、児童は気持ちよく運動会に参加できました。児童自身の「お陰」もたくさん目にすることができました。５・６年生が自らの競技や演技を行いながら応援団や係の活動を行ってくれた「お陰」で、運動会が華やかな中、スムーズに進行できました。１～４年生が、５・６年生のリードにしっかり従いながら、全力で応援してくれた「お陰」で、赤団・白団ともに、素晴らしいチームワークで粘り強く競技に臨めました。

そして、多くの保護者・地域の皆様にお越しいただき、温かい声援を送っていただいた「お陰」で、児童はより一層の力を発揮することができました。改めて心からお礼申し上げます。なお、来年度の運動会は１０月２６日（土）に開催を予定しております。

さて、今月の表題ですが、今年の全国高等学校野球選手権大会（夏の甲子園）で準優勝した、仙台育英学園高等学校の須江航監督が、決勝戦を終えてのインタビューの中で語った言葉です。「人生は敗者復活戦。いつも、負けから始まる」と選手に言い続けてきたそうです。運動会でもそうでしたが、勝者がいれば必ず敗者がいます。そして、多くの場合、勝者となることよりも敗者となることが多いのではないでしょうか。

「人生は敗者復活戦」という言葉は、優勝を逃した仙台育英の選手だけでなく、そこまでに敗れた全てのチームの選手を救う言葉となったのではないかと思います。勝つことで得ることもたくさんありますが、負けることによって考えること、改善することはそれ以上にあるように、私も経験上感じます。そして、「復活」は野球に限らず別のステージで果たすこともできます。須江監督は、決勝で負けた夜「この負けを敗者復活のエネルギーにして、人生に臨んで欲しい」と選手に伝えたそうです。

大切なのは、思い描いた通りには勝つことができなかった自分を認め、次の目的地や進む方向が見つけられるように顔を上げることだと思います。それを自分だけでできる人もいれば、誰かの助けを必要とする人もいます。

私たち大人の役割は、顔を上げることができない子供に、まず挑戦したことやその過程を認め称賛し、新たに目指すべき道を模索する姿を傍らで見守り、時に一緒に悩むことではないしょうか。きっと負けは勝ち以上の価値を与えてくれます。